

野洲市歴史民俗博物館協議会委員名簿

任期 令和2年5月1日から令和4年4月30日まで

氏名	選出区分・所属等
難波 洋三	考古 奈良文化財研究所客員研究員（再任）
大橋 信弥	古代 近江古代史研究会代表（再任）
母利 美和	近世 京都女子大学文学部教授（再任）
山路 興造	民俗 野洲市文化財保護審議会委員（再任）
井上 一稔	美術工芸 同志社大学文学部教授（再任）
今井 早奈枝	野洲市文化財保護審議会委員（再任）
竹内 和子	博物館友の会代表 歴史民俗博物館友の会理事（再任）
高島 謙治	小学校校長会代表 野洲市立篠原小学校校長（再任）
植村 有子	中学校校長会・教頭会代表 野洲市立野洲中学校教頭（再任）
江竜 康成	地元高等学校代表 滋賀県立野洲高等学校校長（新任）

令和3年度野洲市歴史民俗博物館協議会結果要録

日 時	令和3年11月15日（月）14:00～16:00
場 所	歴史民俗博物館研修室
出席委員	難波洋三（委員長）・今井早奈枝（副委員長） 母利美和・大橋信弥・山路興造・竹内和子・高嶋謙治 江竜康成
欠席委員	井上一稔・植村有子
事務局	西村健教育長・進藤武館長・角建一副館長 齊藤慶一学芸員・鈴木茂学芸員

開会あいさつ

昭和63年11月の開館から30年以上が過ぎた。協議会委員、友の会や市民のみなさまをはじめ多くの方々にお支えいただき、深く感謝申し上げたい。

今年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症により多くの事業・企画が中止・延期となった。本日の会議では、今年度の事業報告や次年度の事業計画等について、委員の皆様のご意見をいただきたい。

委員紹介・職員紹介（自己紹介）

市内高等学校の代表であった松井博史先生が昨年度で退任され、江竜康成先生に就任いただいたことを報告。

報告事項

1) 令和2年度事業実績報告について

- ・主要事業と前回の協議会以降に実施した事業を中心に報告

委員意見

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止の行事が多かったのはやむを得ないが残念である。

2) 令和3年度事業経過報告と今後の予定について

- ・今年度の事業経過について報告

○委員 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の中止・休館になったことは残念であるが、銅鐸博物館として銅鐸の秋期企画展が開催できたのは良かった。

今回の図録は少し専門的な内容ではあるが、銅鐸の専門博物館としての一面をもっているので、こうした内容の展示や図録の作成も継続してほしい。

○委員 今回の秋期企画展は滋賀県立安土城考古博物館と守山市立埋蔵文化財センターと連携しているが、どうだったか。

- 事務局 弥生文化をテーマに共通のロゴマークを作成し、各館のポスター・チラシに掲載した。また、展示資料や講演会等の日程が重ならいように調整した。
- 委員 他館と連携することは非常に良いことである。また、県内だけでなく県外の博物館とも協力していけると良い。
- 委員 連携事業はメディアも取り上げてくれることが多くアピールすべきである。また、滋賀県博物館協議会とも連携し活用すべきである。
クイズラリーの参加が多いが、参加者はクイズラリーを目当てに来館されているのか。対象は市民のみか。
- 事務局 博物館展示から楽しく歴史を学習し、新たな気づきを見出す試みとしてクイズラリーを毎年行っている。夏休みに体験学習と合わせ参加される方が多い。クイズラリーは入館者どなたでも参加していただいている。
- 委員 朝鮮人街道についての展示は、どういった内容か。
- 事務局 朝鮮人街道沿いの巨大な古絵図を展示した。絵図と現代の地図を比較し、地域のうつろいを実感してもらう展示とした。
- 委員 朝鮮人街道は歴史的に非常に重要な街道であり、それを取り上げた展示は非常に良い。名称が、差別的な意味に誤解されることはなかったか。
- 委員 朝鮮人街道の近くに住んでいるが、差別的な意味あいを使う人はいない。
- 委員 地元の方に誤解をしている人はおらず、正確に朝鮮人街道の歴史が周知されていることは良いことである。いずれにしても朝鮮人街道は歴史的に重要であり、これからも取り上げてほしい。
- 委員 博物館実習の受け入れについて、大学との連携は行っているか。新型コロナウイルスの影響もあり、大学側も受け入れ先に困っている。
- 事務局 これまで地元学生を受け入れてきたが、今後、検討していきたい。

3) 令和4年度予算要求や来年度事業について

・来年度の事業予定について報告

- 委員 博物館管理運営事業費が大きいのは改修工事等の影響か。
- 事務局 そのとおりです。
- 委員 建物も30年以上経っていることから、老朽化等が心配されるがどうか。
- 事務局 年々、細かい修繕が増えている。計画的に修繕をしていく予定である。
- 委員 公園にある竪穴住居が傷んでいるようだが、修繕が必要ではないか。
- 事務局 直ちに修繕は難しく、危険な1棟は取壊しを考えている。
- 委員 全国的に復元施設の維持の問題は増えてきている。困難が想定されるが頑張してほしい。来年は修繕工事のこともあり常設が多いが、常設展示の入替え等はどう行っていくのか。
- 事務局 不定期ではあるが行っていく。
- 委員 展示入替しても、積極的にPRをしなければ、ずっと同じ展示をしているのだと誤解されるので注意が必要である。
- 委員 常設は「常に見れる展示」であり、変化を加えていくなれば、一部に焦点を当てピックアップした方がよい。

- 委員 変更した展示内容は大きくPRされたい。また全国的にSNS等を使ってPRできる方がよい。
- 委員 以前には、旧野洲町庁舎の屋上に新幹線から「銅鐸のまち野洲」のネオン看板を見ることができた。この様な宣伝を復活させてほしいものだ。新幹線からは多くの人がみるので良いアピールになる。
- 以前、野洲といえば銅鐸であったが、今はあまり浸透していないように思う。銅鐸をもっとアピールすべきである。
- 来年度の企画展は、守山市を含めた野洲郡を取り扱ったテーマであり非常に期待している。文化的にも今の市町村区分だけでなく、旧郡の区分は非常に大事である。
- 委員 仏教美術は人気もあり良い展示になると思う。宣伝に努められたい。
- 委員 博物館ホームページが市のホームページ内にあるため、制約等があると思うが、もっと一般の人にわかりやすく、検索にわかりやすい形にすべきである。
- 委員 近年は、散歩する人や登山をする人も増えていることから、そういった人を呼び込めるようなPRも良いと思われる。
- 事務局 最近では、野洲は「銅鐸のまち」から「サッカーのまち」と呼ばれる様になった。しかし、銅鐸は野洲のアイデンティティであることには変わりはないので、商工観光課等とも連携し、もっと宣伝していきたい。
- 委員 出前講座などはしているのか。
- 事務局 年間を通じて行っているが、近年は新型コロナウイルスの影響により直前になって中止となる場合が多い。
- 委員 夏に博物館を利用して、県内の高校学校教員の新任研修をし、先週も社会科の高等学校教員に向けて研修に活用した。地域を知る良い機会であり、今後も活用を図りたい。

事務局

いただいたご意見を活かし、よりよい博物館の運営につとめていきたい。

閉会